へ13
3683
6

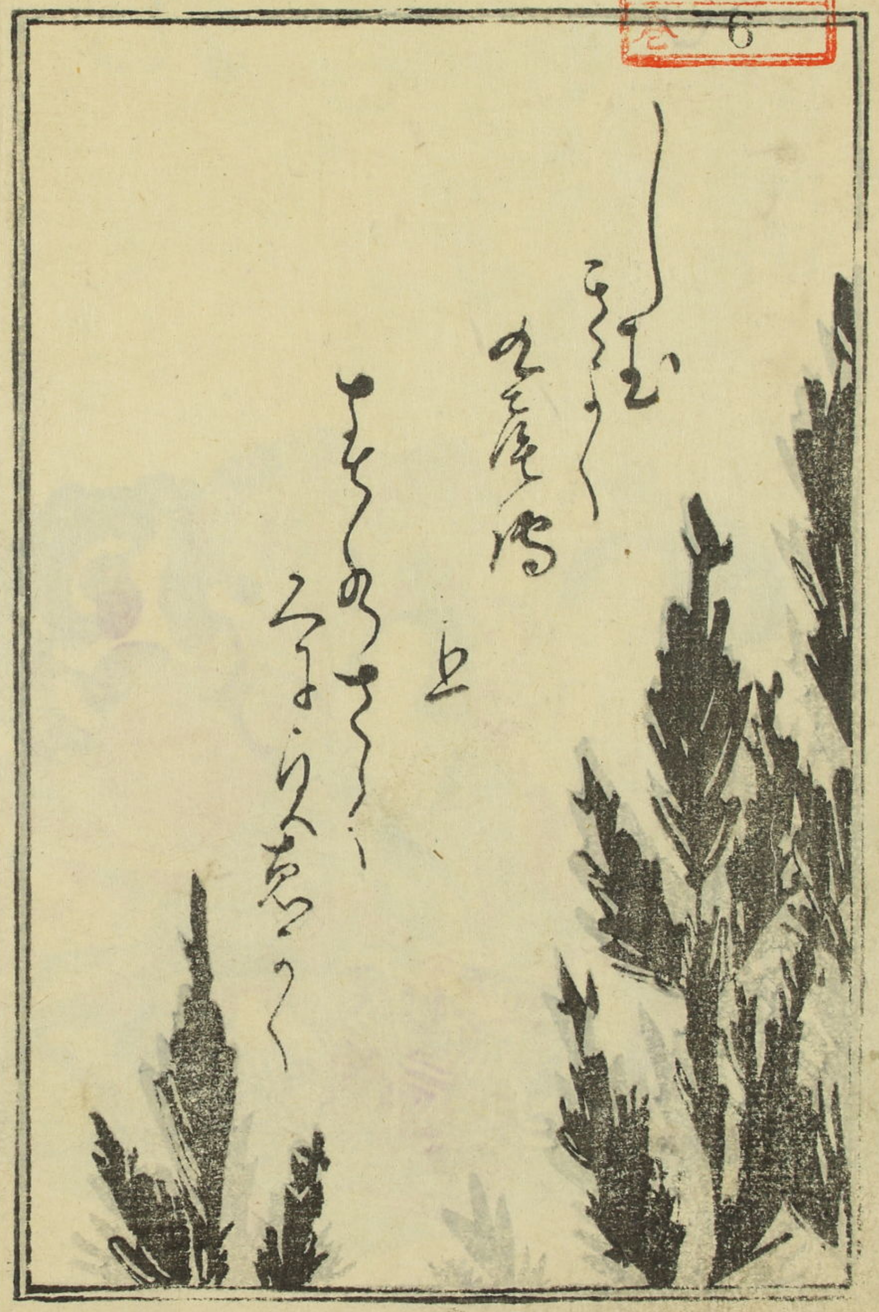
丸屋傳

十一編下

十一編上

孔雀傳

門へ13
號 3683
6



本傳九尾士の證拠とするもの唯かの金毛三筋のみ
合せ一ところ三九二十七筋ある最生細
ある支をもて種とする綴りくる吹けば飛ぶよるる
却向ふ九尾のもと倘九牛の毛あらねど九尾の裡の
一毛ぐも御目に留る支あるもて善惡邪正戀無常
時代と世話の裏表を毛抜合せて緘冊子ハ鶴の
毛衣幾千代うけて作者も年をふる筆に愛度局代
結ぶん支毛頭相違のごとしとぞ

明治第三庚午孟春

為永春水記

太郎の妻
水樽

若黨
市平
太郎
正木
豊秦

九尾十一
見の型
執權
正木
内藤
基勝

十編のつゞき

里見

芳虎
國貞
合画

春水作

助が

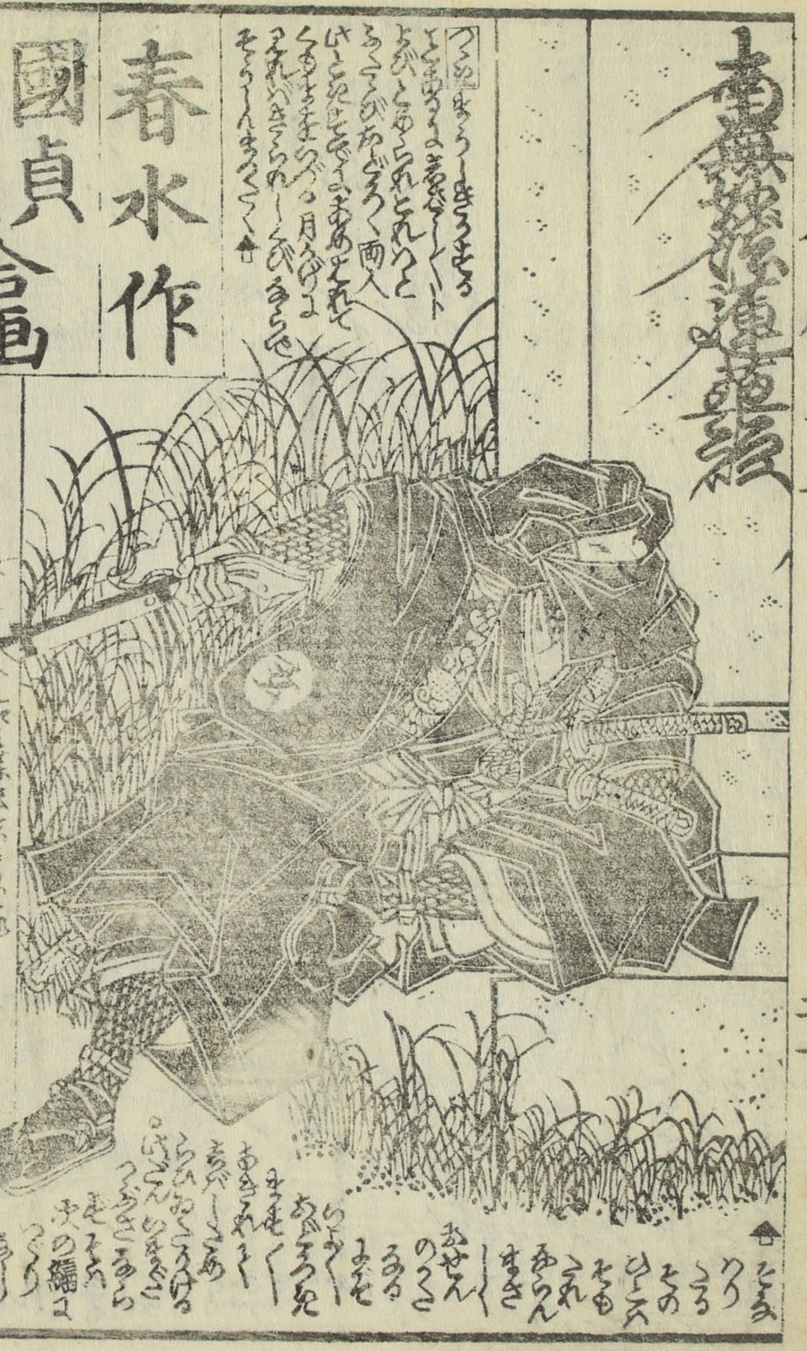
盟
約

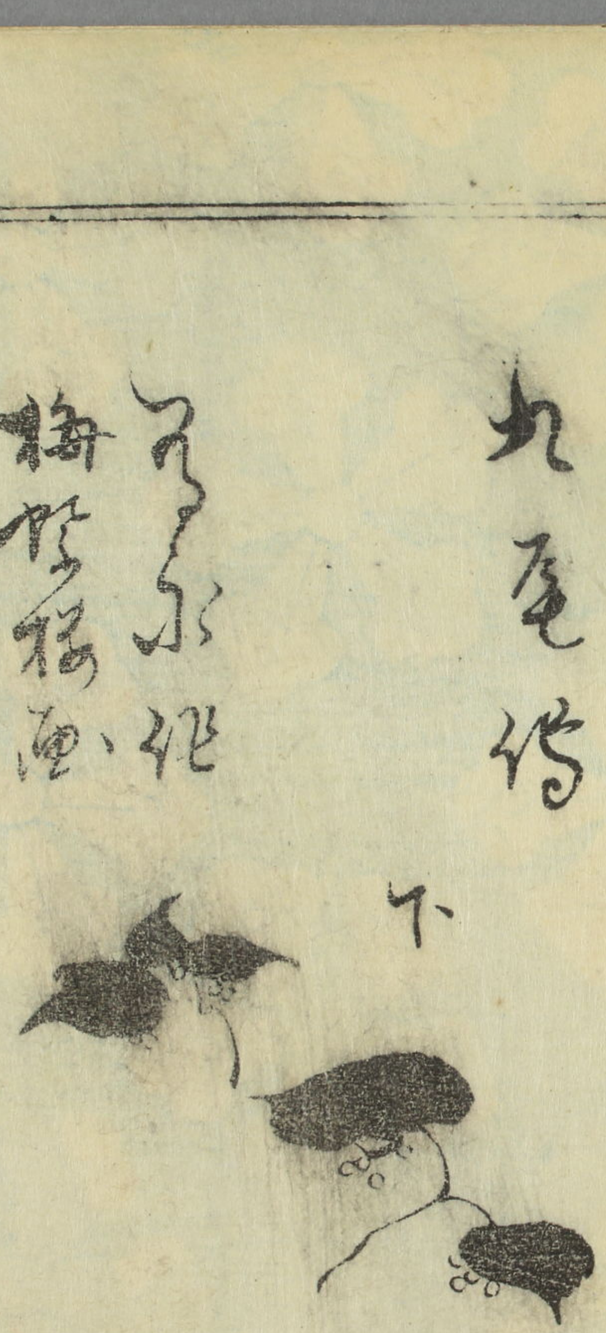
春水作

國貞
芳虎合畫

朝鮮牛肉丸

大色金一朱
中色金一朱
小色銀一匁





春水作
國貞
寫

魚屋
十

九尾傳
十二編下

有人仍
虎亟
十二編上

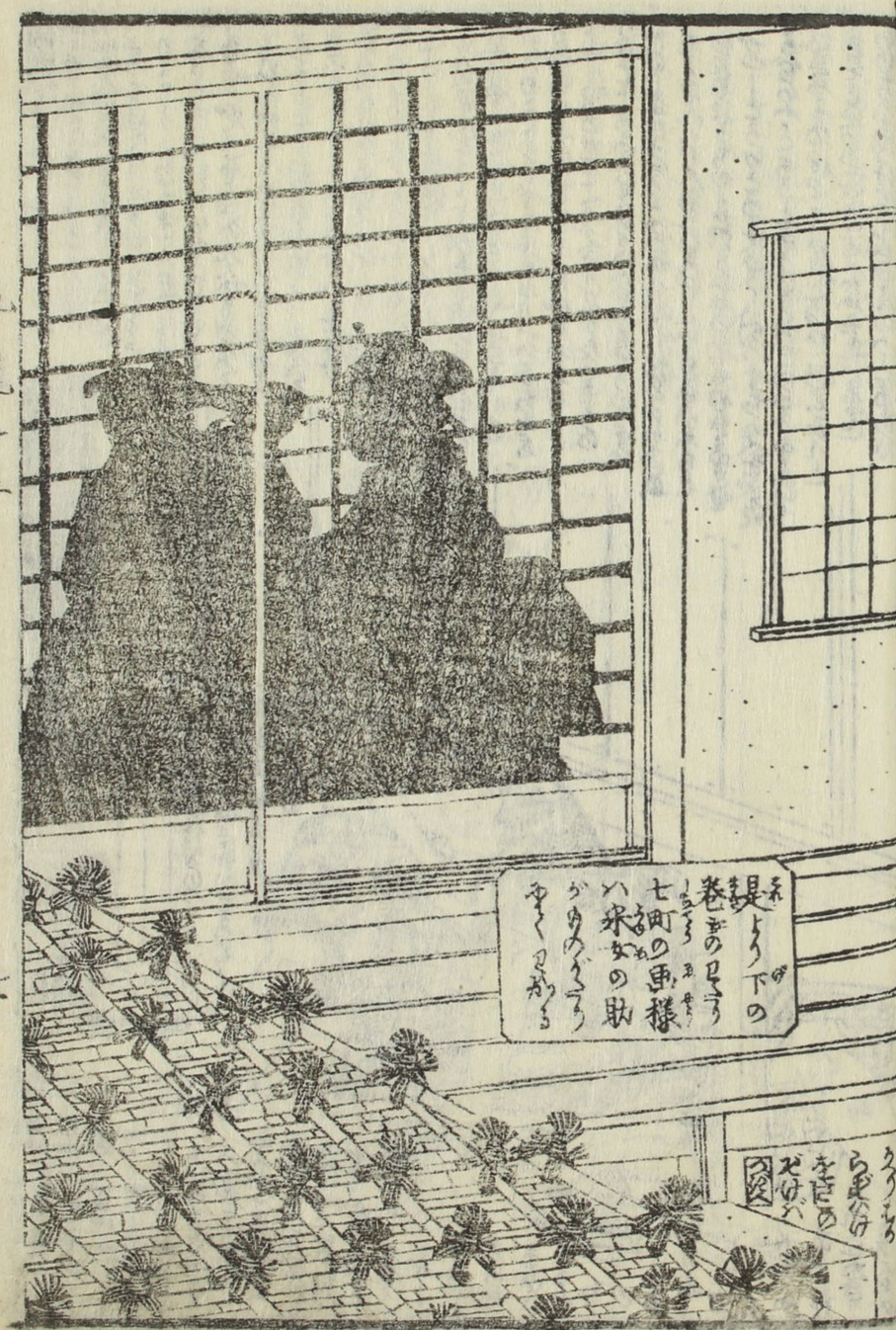
一廉老舗の繁昌店も。代ゞ変べ同ト物を。同ト直段ふ鬻バ。そて。肖官の減るハ。その習俗。此史も既ニ售物乃。正札附とあり。なるも。今我黨の大管轄。春水ぬし。夫彼の簿紙。あらゝ綴文ニ。筆のやりくり繁雑て。机上弛山ふ山鳥の。尾の字名葉る九士の一ト株。同業輩と序江譲らんしゞ。不卓見ある駈出し。作者。品の劣るハ勿論ゆゝら。ヨヤ〳〵戯名ゞ遠ふゝと。御見棄ゆゝ賣弘し。外題ふ愛。相替らぬ御求を冀ふなん

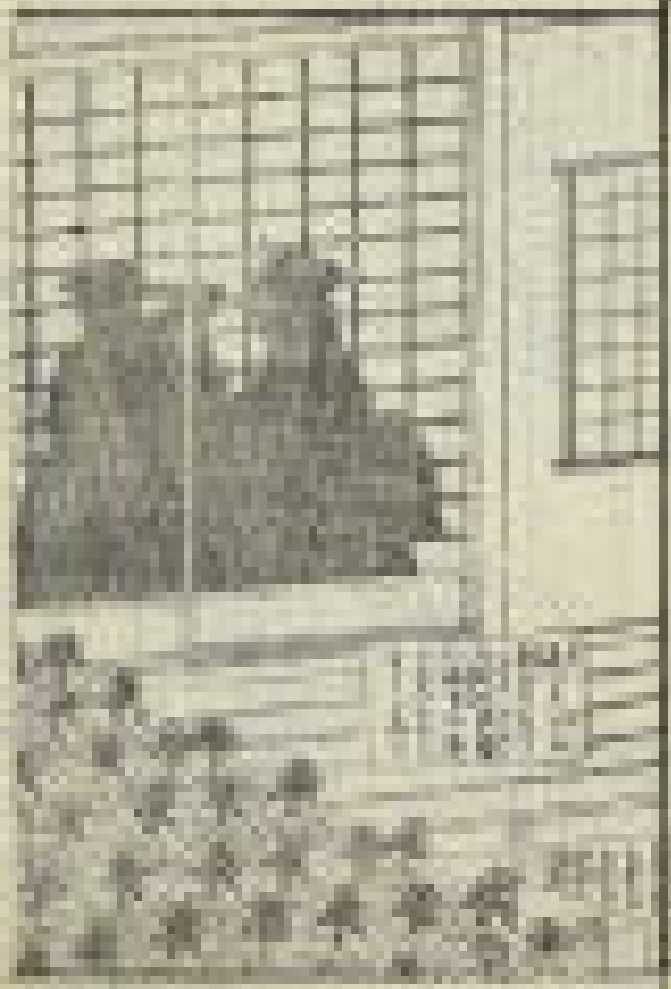
明治三庚午仲冬結稿

山〻亭有人記

播州尾上の
浦之舩持
尾上磯松
磯松が
言号
於
雪

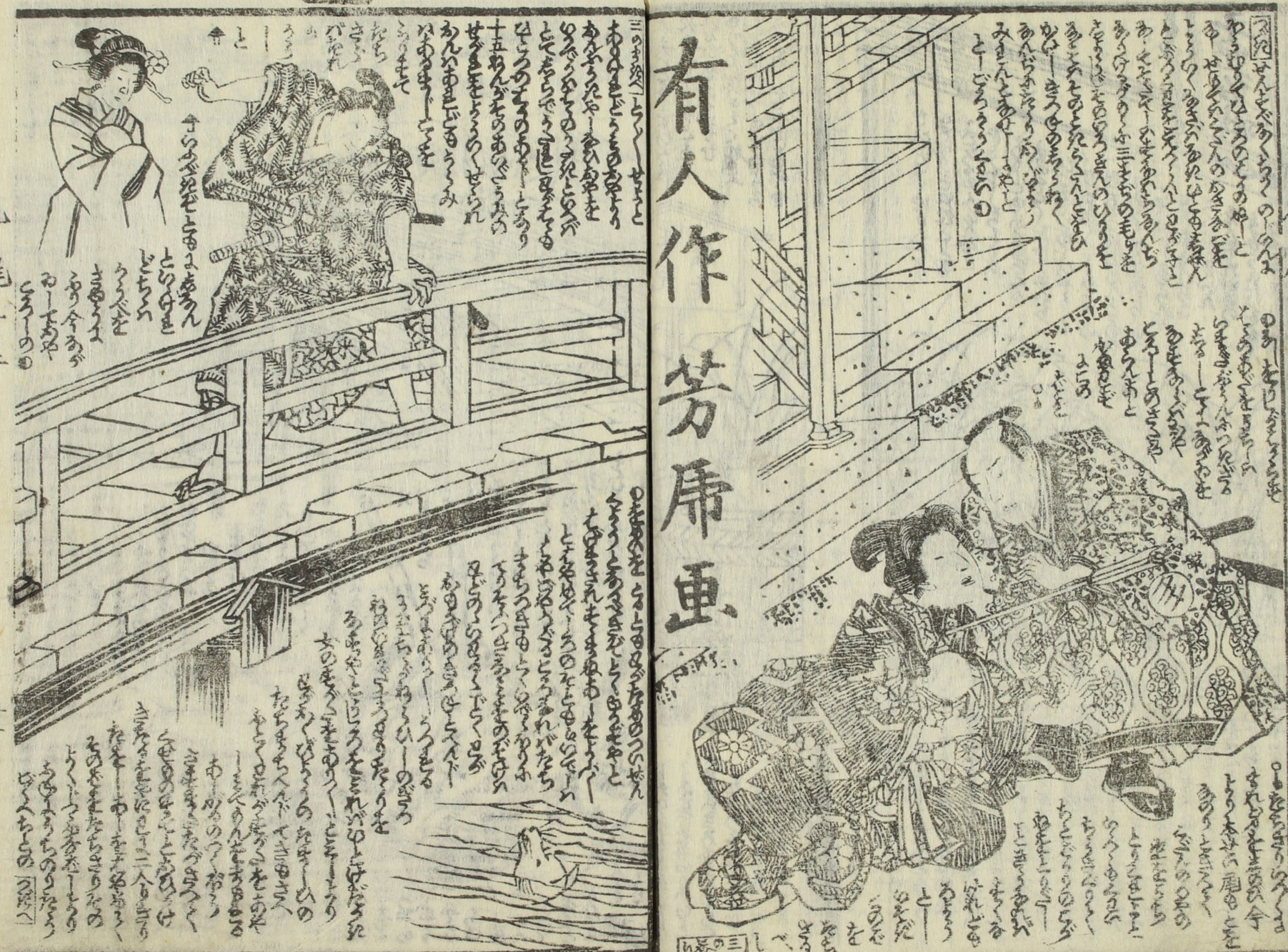
洛吉ゞ物語うと
翔て見ちまく


見よう下の巻きの見うり
七町の恵様
小米女の助

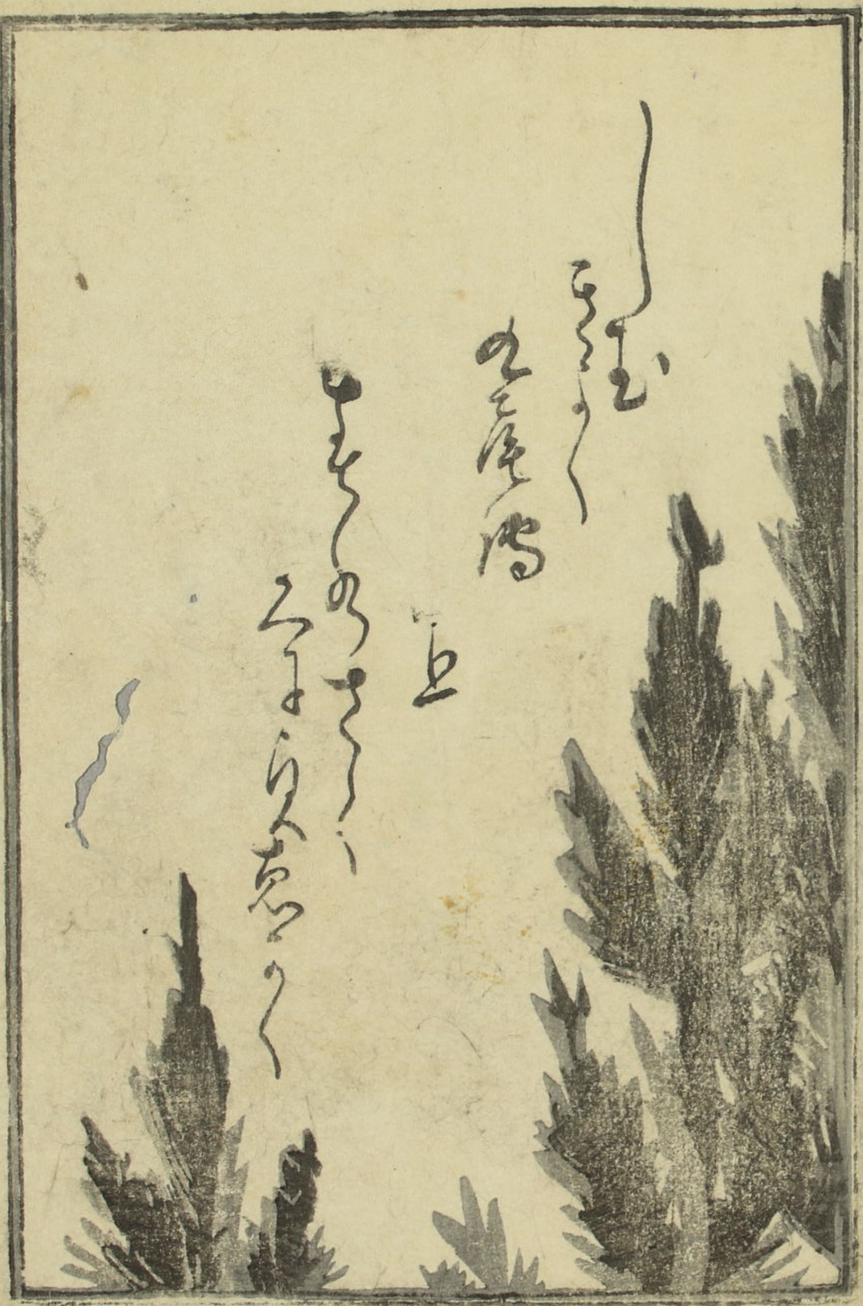
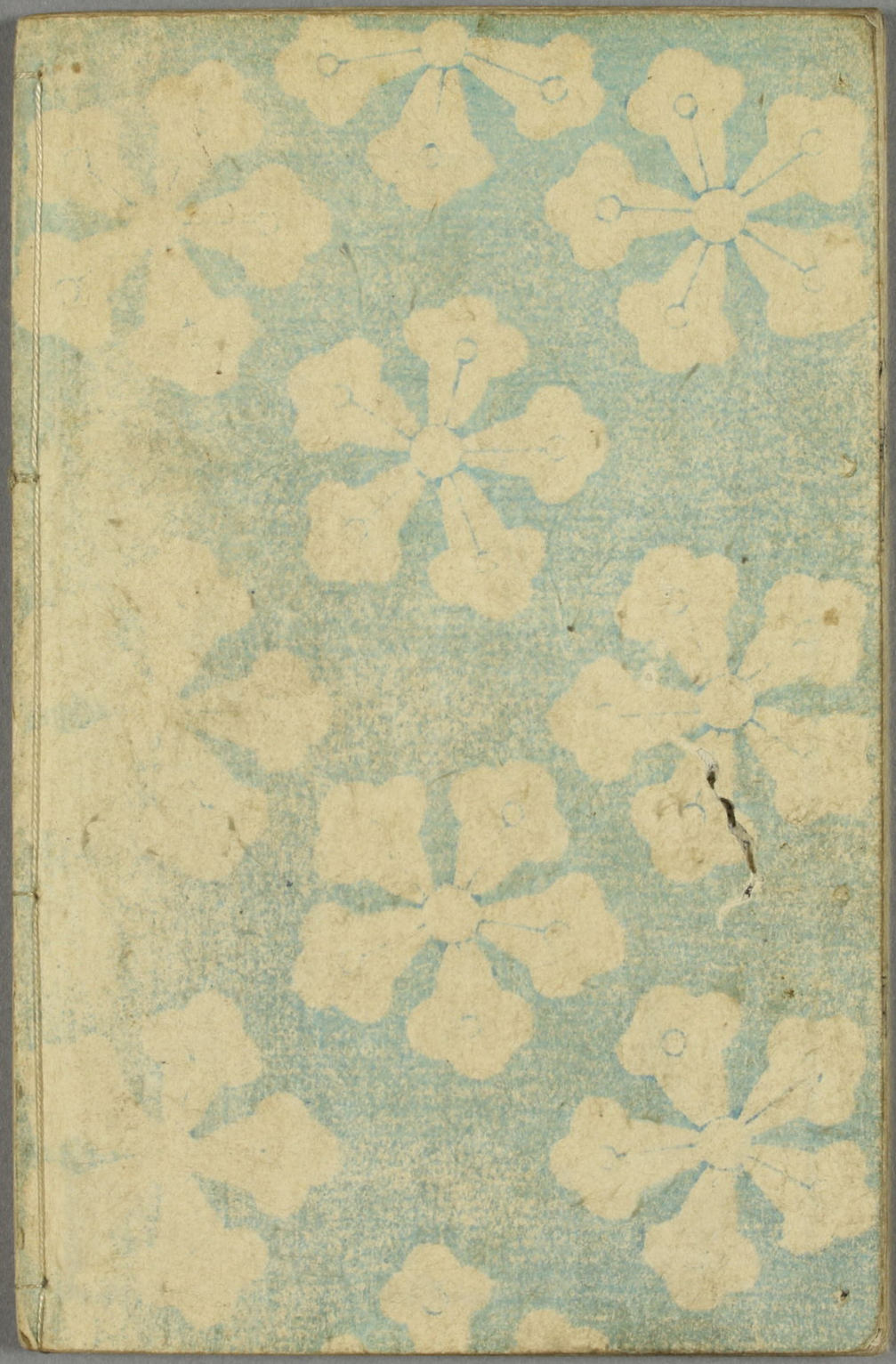


手児名社

有人作芳帛重



新助妻
小間新
小間新



山々亭有人作
一猛齋芳虎画